

にする方針。

同社では昨年5月に、関西地区での顧客開発に伴う取扱増と既存施設の賃貸借契約満了を背

景に、新物流施設を建設する同用地取得の意向を発表していた。

なお、整地後の実測により、5月発表時から面積および取得

予定額に若干の変更が生じている。また、今回の用地取得による18年3月期の連結業績に与える影響は軽微としている。

ナカノ商会

物流施設開発・流動化事業に本格参入

戸田、白井の2物件からスタート

ナカノ商会(本社・東京都江戸川区、沼澤宏社長)では、物流施設の開発・流動化事業に本格参入する。5月頃第二種金融商品取引業の登録を完了し、戸田(埼玉)、白井(千葉)で2つの物流施設の開発に着手する。物流施設のユーザーが開発から流動化までを一貫して手掛ける例は珍しい。

投資目的の物流施設はプレイヤの参入が続き、供給過剰により一部エリアでは空室率の上昇が見られる。ナカノ商会は自らが物流施設のユーザーとなり、「稼働中の優良物件」として流動化できるアドバンテージがある。

長年にわたる物流施設のサブリースおよび近年の3PL(サードパーティー・ロジスティクス)業務で培ったノウハウを活用し、用地選定、開発、庫内オペレーション、流動化までの一連のプロセスを内製化する独自のビジネスモデルを構築する。

戸田の物流施設は約7220㎡で投資規模は約20億円。白井の物流施設(完成イメージ)は約5万8993㎡で約100億円。いずれもナカノ商会が開発して流動化まで一貫して行う。

ナカノ商会は、2003年に日本で初めて外資ファンドからBTS(ビルド・ツー・スリー)型倉庫を賃借したのを皮切

郵船ロジベトナム・ダナンに倉庫新設

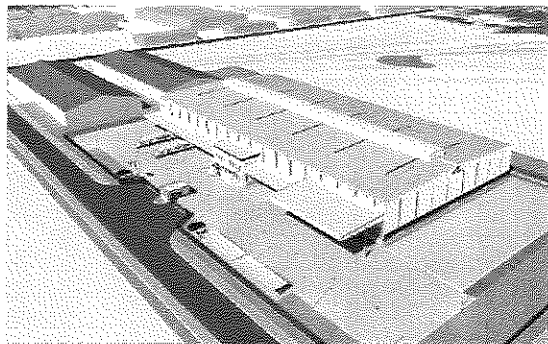
クロスボーダー、南北輸送を強化

郵船ロジスティクス(本社・東京都港区、水島健二社長)は3月30日、同社ベトナム法人の「Yusen Logistics (Vietnam) Co.,Ltd.」(近藤武士社長)がベトナム中部ダナン市に自社倉庫を新設し、4月に営業を開始予定と発表した。ベトナム中部

での自社倉庫は日系物流企業では初となる。

ダナン市は、ベトナムの2大消費地であるハノイとホーチミンのほぼ中間に位置し、国内第3位の貨物取扱量を有するティエンサ港の整備をはじめ、インフラ整備や外国投資の誘致を積

りに、物流施設の開発・流動化に間接的に携わるとともに、千葉湾岸エリア、内陸エリアを中心としたサブリースで優位性を持つ。今後は、3PLの好調も背景に自らがユーザーでもあるデベロッパーとして存在感を高めていく。



ダナン自社倉庫外観イメージ

